

此從業員左右派の動靜は、前回の報告に於て既に述べた所であるが、本年は、主として、(1)東交の現状に就いて、(2)更生案の発表を以て、(3)組合が開催した臨時大会を起桌として、(4)東交が今日のやうに、その無統制を暴露して、混乱し壊滅の危機をさへ思はしめるに至つた原因を観るに、我が國の行き詰つた經濟的並に社会的諸事情、或は當局の事業經營方針及勞働行政の反影等他動的影響の然らしむるもの或は組合内部に於ける指導精神を失つた組合幹部の行動並に思想的対立の内紛等混然たる諸事由は期を同じうして沈滯せる東交にかかる苦境を招來したものである。而して東交内紛の表面化並に混乱への端緒は即ち十二月開催された臨時大会に於ける選出本部役員が余りに勢力伸せざる所謂幹部級を以て構成せられたことにありと觀ることが出来る。

十二月の臨時大会は十月二十日敢々開催、斯くて昭和七年度、年次太合に選出せられた本部役員が當局の断行した更生案実施の難に遇つ